

公明党千葉市議会議員団

市議会だより

発行日/令和7年1月 発行/公明党千葉市議会議員団
〒260-8722 千葉市中央区千葉港1-1

2025
新春号



本年も皆様のご期待に全力でお応えしてまいります。



若葉区
青山雅紀

中央区
酒井伸二

緑区
吉川英二

花見川区
石川美香

花見川区
茂呂一弘

中央区
森山和博

美浜区
伊藤康平

稲毛区
桜井秀夫

公明党千葉市議会議員団「緊急要望書」を神谷市長へ提出!

国の補正予算成立を見据え、本市の取組みを加速させるため、物価高騰対策に係る緊急要望書を市長へ提出しました。生活者支援としては、住民税非課税世帯等への1世帯3万円の給付および子育て世帯への子ども1人当たり2万円加算の給付を速やかに令和7年3月末までに実施することを求め、学校・保育施設等給食費支援における令和7年度での継続など、幅広い市民層への対策を要望しました。

一方、事業者支援については、エネルギー価格等の高騰に影響を受けた中小企業・小規模事業者の事業継続を支援するとともに、農業者が直面している飼料価格高騰への対策や、特に市内バス路線の維持に關与する公共交通機関事業者が直面する燃料費等の高騰化への対策など、業種の個別ニーズに適った物価高騰対策を要望しました。

神谷市長からは「市議団からの要望項目についてしっかりと対応していく」とのコメントがありました。



千葉開府900年



千の葉に 時を刻んで 900年

メンバーシップ制度
のQRコード



千葉開府900年メンバーシップ登録制度スタート!

千葉市のまちとしての歴史は、1126年6月1日に千葉常重が現在の中央区亥鼻付近に本拠を構えたことに始まり、2026年度は千葉開府900年の大きな節目となります。

これから「千葉開府900年」に向けて様々な記念事業を行われますが、そのシンボルとなるロゴマークとキャッチコピーが市民投票によって決まりました。

選ばれたロゴマークとキャッチコピーは千葉開府900年のPRのために広く活用されます。

また、市民・団体・企業等の皆さまがメンバーとして登録し、千葉開府900年の記念事業と一緒に盛り上げる取組みとして、メンバーシップ登録制度が作られました。

一緒に千葉開府900年を盛り上げましょう!!

2024年 第4回定例会 公明党市議団の代表質問から



子ども発達相談室が開設されました！

令和6年11月に発達障がいの早期発見・早期支援を図るための相談支援体制として「子ども発達相談室」が、ポートサイドタワー 9階に開設されました。

発達に関する相談を受け付ける市内の専門機関としては、医師の診察・診断を受けられる市立の療育相談所がありましたが、近年は相談者が増え、3～4カ月待ちの状態が続いているほか、気軽に相談できる窓口がないことも課題でした。

そのようなことから、市議団としても相談に迅速に対応できる体制強化を求めてきました。

「子ども発達相談室」の設置により、数ヶ月もかかる療育相談所の医師の診察・診断の待ち時間が解消されることを期待しています。



農業技師育成 営農指導の充実を目指して！

市議団では、令和3年度に策定した「千葉市農政センターリニューアルプラン」に位置付けた3つの機能強化の一つの方法として、「農業技師の指導力の強化」を実現するため、栽培技術やスマート農業技術を用い、生産性や経営に係る各種データを活用した営農指導ができるよう、指導力の強化を求めてきました。



今年度からは、農政センターに整備したイチゴ栽培施設において、環境制御技術や栽培管理指導に精通するアグリテック企業による、栽培計画策定や技術指導など生産や経営に係るデータを活用した営農指導を行うとされています。引き続き、農業技師の育成と営農指導の充実に向けた取り組みを推進してまいります。

プラスチックごみ分別収集・再資源化について

市議団が予算要望等で、市へ対策を求めてきました家庭系プラスチック分別収集・再資源化への取り組みとして、令和6年8月から11月まで、市内2地区(中央区仁戸名町 松ヶ丘小学校区、美浜区幸町一丁目千葉ガーデンタウン)で、モデル事業が実施されました。

実績としては、4か月間で約10トンのプラスチック資源が収集・再資源化され、資源化対象外の不適物の量も全体の約2%であり、分別精度が高い結果となりました。

市議団として、今後は、プラスチックごみを分別する目的の説明、わかりやすい分別方法の周知や、市民の皆様が積極的に取り組めるような意識啓発、これらを組み合わせ、市民の皆様が納得して協力いただけるような実施体制が整備されるよう求めてまいります。



市施設で回収する小型充電式電池の対象が拡充されました！

スマートフォンやパソコンなど多くの機器で利用されている小型充電式電池は、希少な資源が材料として使われているため、当該電池にはリサイクルマークが表示されるとともに、製造メーカーなどには回収・リサイクルが法律で義務付けられ、その協力店で回収が行われています。

市では、各環境事業所および新浜リサイクルセンターにおいて、家庭から排出される当該電池（ニカド電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池）の拠点回収を実施しています。

これまで「※JBRC会員企業製以外のもの」や「膨張や破損しているもの」は回収の対象外となっており、市民の皆様から当該電池の回収について拡充を求める声をいただき、議会質問等で取り上げるなど、機会を捉えて改善を求めてまいりました。

令和6年12月から、JBRC会員企業製以外のものや、膨張・破損しているものについても、回収対象となりました。

※JBRC：小型充電式電池の回収・リサイクルを義務付けられた電気メーカー等が会員となり設立された一般社団法人

小型充電式電池は次のマークが目安となります



Topic 加曽利貝塚発掘調査開始100周年！

令和6年度、特別史跡加曽利貝塚は、1924(大正13)年に行われた東京帝国大学による発掘調査から100周年を迎え、令和7年3月末まで記念企画展を加曽利貝塚博物館にて開催しております。

同史跡での発掘調査は日本の考古学の発展に大きく寄与し、特に縄文土器の研究の歴史にとって欠かせないものとして知られています。

また、特別史跡加曽利貝塚では、平成29年度から継続的な発掘調査を進めており、令和6年度の発掘では、これまで主に縄文時代中期(今から約5～4千年前)の遺跡と考えられていた北貝塚において、縄文時代後期(今から約4～3千年前)の竪穴住居跡や縄文土器などの遺物が数多く見つかるとともに、これまで考えられていた加曽利貝塚のムラの変遷について再考を迫る新たな成果が得られました。

これからも継続的に発掘を進めていく予定であり、縄文時代の文化や社会の解明につながる調査成果が期待されます。



市政に関するご意見やご要望をお寄せください！